



Vol.88

ゆうこみやゆき

なるほどアイヌ文化エッセイ

ソノコ de ソノコ



アイヌ文化のことをもっとも話したい!
本田優子と村木美幸の二人が、
その魅力を交代で執筆する
ソノコ(=お便り)形式のエッセイです。



村木美幸
(アイヌ民族文化財団
常勤理事)

今月のテーマ
アイヌの楽器
—ムツクルとトンコリ—

「びよん、びよん、
よん…」というムツ
クルの音を初めて聞い

た時、子供の頃に見たテレビ漫画『ど根性ガエル』を思い出したの。平面ガエルのピョン吉が跳ねる時の効果音がムツクルの音そのまんまでした。

ムツクルは、樺太ではムフクン、ムフクナと呼ばれる口琴。口の中で弁を振動させて音を出す口琴は、ヨーロッパやアジアを中心に世界的に分布します。鉄や真鍮などの金属製のものもありますが、アイヌのムツクルは竹製のものが主流。古くはイチ



イラスト/ 莊田悠人

イヤノリウツギのような硬い木でもつくられたといえます。長さ十五センチほどの竹を薄く削ったもので、中央に振動させる弁となる切込みを入れます。弁の根元に紐を結び、その紐を引くことで振動する弁を口腔内で共鳴させます。口の形や舌の位置を変えたり、息を吸ったり吹きかけたりすることでいろいろな音が生まれます。喉を駆使して出す倍音も魅力的ですよね。音の変化と振動のリズムを組み合わせることで奏者それぞれが独創的な音色を表現する楽器で、風音や雨音、川の流る音、動物の鳴き声など自然界に聞こえる音を模したり、喜びや悲しみなどさまざま



まな思いを音色にのせて表現したといえます。なんかロマンチックですよ。

ムツクルと並んで紹介されるトンコリは、樺太や北海道北部で使われた弦楽器。歌や踊りの伴奏としても使われ、三弦、六弦のものもありますが五弦のトンコリが多いことから五弦琴と訳されます。開放弦なので音の高さは弦の数だけですが、どの音をどこに配置するかは決まりがないので創作する曲に合わせて変えることができますよね。演奏スタイルも自由で、座ったり立ったり、時には横になって寝ながら弾くこともあったとのこと。トンコリを肩に立て掛けて左手の腹で押さえるように固定し、両手の指で弦を弾き、爪で掻き鳴らし、リズムを刻みます。樺太で伝承された恋の歌など素敵な曲がいくつも伝えられています。ムツクルもトンコリも即興性の高い楽器です。自然の情景やその時々々の心のあり方などが奏者毎に創造され表現されていくなんて素敵ですよ。

今回のテーマは「キナポマンボウ」
本田優子(札幌大学教授)
が担当します。

■本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
■村木美幸(むらきみやゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団常勤理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
■莊田悠人(しょうだゆうと):平取町二風谷生まれ。漫画家兼イラストレーター。幼い頃のアイヌ文化が原風景。東京在住。